

# ガヴァナンス中・長期計画 案

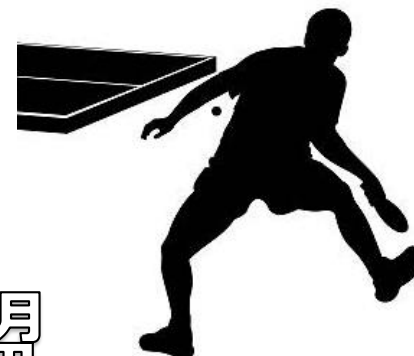
中期計画 2022-2024

長期計画 2022-2028



一般社団法人

日本知的障がい者卓球連盟



# 一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟について

2022年2月1日 現在

設立 任意団体 1999年 3月15日

法人設立 2016年 4月 1日

登録者数 118名 (2021年度)

登録資格 日本知的障がい者卓球連盟競技者（登録者）及び日本卓球協会登録者

強化選手 NT選手 : 男子4名 女子4名

NT候補選手 : 男子3名 女子2名

育成選手 : 男子若干名 女子若干名

次世代育成選手 : 男子若干名 女子若干名

## 組織図（連盟ホームページ参照）

### 【専門部】

- ◆強化・普及部
- ◆大会事業部
- ◆総務部

### 【特別専門委員会】

- ◆運営委員会
- ◆役員推薦委員会
- ◆コンプライアンス委員会

### 【専門委員会】

- ◆選手・母体コーチ選考委員会
- ◆強化戦略委員会
- ◆普及拡大推進委員会
- ◆大会準備・運営委員会
- ◆組合わせ委員会
- ◆マーケティング委員会
- ◆広報委員会

主催大会	パラ ID ジャパン・チャンピオンシップ卓球大会 2022 パラ ID ジャパン・年代別オープン卓球大会 2022 パラ ID 全日本卓球選手権大会
強化合宿	NT合宿 10回／年 、 全体合宿 2回／年
海外遠征	10回程度
普及活動	2回／年

## 策定の趣旨

一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟（以下、「本連盟」とする。）は、2016年度より社団法人化することで、知的障がい者のスポーツを総合的に推進していくことを目指してきました。スポーツの魅力と楽しさを伝え、感動を分かち合い、喜び合い、そして支え合うことで身体的にも精神的にも人格を鍛えるインテグリティの高揚を目指すことに向けて取り組んできました。

本連盟に関係する選手・コーチ・職員・役員のほか「かかわる全ての人」が共通した理解と目的をもち、『未来の理想とする姿』に向かって進み、またその姿を外部の方に理解をしてもらい、理解者・共感者・協力者を増やすことを目的としています。

今、まさに東京 2020 パラリンピックを終え、本連盟の取り巻く環境が大きく飛躍する重要な時期に入っています。

さらに、2024年、2028年のパラリンピック大会に向けて、IoT（インターネットにつながった機械など）の発展やAI（人工知能）の活用などによるスポーツ環境を取り巻く急速なトレンドの変化を見据えて、伝統と歴史ある未来を紡ぐ選手の育成や事業の推進をしていく必要があります。

2022年以降、本連盟の組織力・マネジメント力を上げ、知識や運営能力を高めるために障がい者スポーツの発展に向けての取り組みを明確にし、併せて厳しい環境に直面することを想定し、経営基盤の安定化に向けた事業方針を示します。

## 策定の期間

2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
(延期) 東京パラリンピック ・アジア選手権大会	世界選手権大会 アジアパラリンピック	・アジア選手権大会 ・ VIRTUS グローバルゲーム	パリ・パラリンピック ・ 設立25周年	・アジア選手権大会	世界選手権大会 アジアパラリンピック	・アジア選手権大会 ・ VIRTUS グローバルゲーム	ロサンゼルス・パラリンピック

中期計画 2020-2024

長期計画 2022-2028

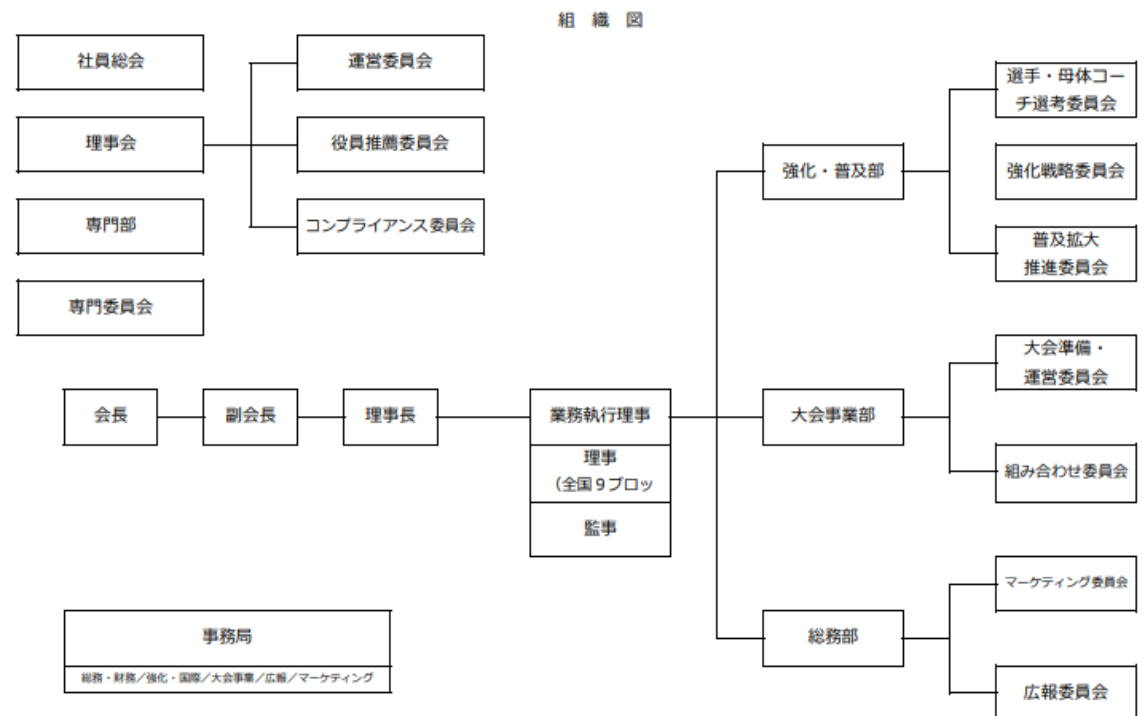
本計画の事業期間としては、2028 ロス・パラリンピック終了までの様々な状況変化に対応可能な計画とするため、2022年度から2024パリ・パラリンピックまでの3カ年を中期計画、2022年度から2028年度までの7カ年を長期計画とします。

# 日本知的障がい者卓球連盟の理念とビジョン

## (1) 日本知的障がい者卓球連盟の理念

本連盟は、(公財)日本パラスポーツ協会および(公財)日本卓球協会に所属し、日本を代表して知的障がい者卓球を総合的に統括し推進する団体であります。

その中心的な役割を担うために、関係団体や関係機関との協働・連携をより強固なものとし、選手の活躍の場の提供や社会活動を通して新たなコミュニティ形成をする事を基本理念としています。



## (2) 日本知的障がい者卓球連盟の中・長期計画 2022-2028

		強化	普及	組織	財政
中・長期計画 (4～8年)	①ミッション・ビジョン (目指すところ、戦略)	<ul style="list-style-type: none"> <li>強化戦略委員会を組織し、委員長は、理事長・強化スタッフと連携し、競技力向上を目指します。</li> <li>JSC の強化戦略に関係する選任コーチやスタッフの起用を検討します。</li> <li>2024 パリパラ、2028 ロスパラでは金 1、銀 1、銅 2 のメダルを目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国から登録者増を図るため地方での大会を継続します。</li> <li>10 代、20 代の若い選手が大会参加することを推進し育成します。</li> <li>ブロック理事と普及活動を展開します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国 9 ブロックから理事を推挙します。</li> <li>女性の理事・コーチの増を目指し、男女平等を推進します。</li> <li>大会の競技役員として若い世代を育てます。</li> <li>円滑な世代交代を図るため定年制を検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポンサー獲得を理事全体の課題として意識していきます。</li> <li>2022 年度 15 団体 600 万</li> <li>2024 年度 18 団体 800 万</li> <li>2028 年度 20 団体 1000 万 を目指し強化戦略の効果上げたい。</li> </ul>
	②現状分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020 東京パラは男子 3 名、女子 2 名が出場。女子銅メダル、男子入賞 2 名。代表選手数は予定より越しましたがメダル数は予定以下でありました。</li> <li>東京 2020 では母体コーチのベンチ入りは可能だったが、パリのベンチ入りは難しいだろうと予想されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動の活発化が必要になります。</li> <li>障がい者スポーツ大会での広報活動を展開します。</li> <li>年代別大会を地方で開催しているが普及活動になっているか疑問を感じます。再確認を要します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状、役員任期は、1 期 2 年、再任を妨げないとなっております。(定款通り)</li> <li>定款では、理事は 10 名以上 20 名以内となっており、2022 年度より 16 名になります。</li> <li>事務局作業分担の組織図を検討し、より一層の作業の効率化を図る必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小口だがスポンサーが徐々に増えています。</li> <li>ユニホームのロゴの位置を再検討する必要があります。</li> <li>これまで通り、小口でも長期支援企業を大切にしたいと思います。</li> </ul>



<p>③目標達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な目標到達地点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手によるアスリート委員会を開催し、広く選手の意見を取り入れます。</li> <li>・2022 世界選手権大会で男女何れかで決勝進出を達成し金及び銀の獲得を目指します。</li> <li>・NT 選手で金を目指す選手を特定し特別強化を検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及活動にも計画書が必要になります。</li> <li>・毎年、新規の登録選手を 10 名ずつ増やす努力をします。</li> <li>・9 ブロック理事と十分なコミュニケーションを図り効果的な普及活動を展開します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国 9 ブロック理事の意見を反映します。</li> <li>・執行理事会の基礎固めに力を入れます。</li> <li>・ブロック理事は年 1 回対面の理事会参加とし、他の理事会はオンライン理事会参加となります。</li> <li>・女性の理事 40%を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度 15 団体 600 万</li> <li>・2024 年度 18 団体 800 万</li> <li>・2028 年度 20 団体 1000 万をスポンサー収入目標とします。</li> <li>・スポンサー収入を、金を目指す強化指定選手の特別強化費として検討をします。</li> </ul>
<p>④戦略課題 (現状一達成目標までのギャップを埋める上での課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強化組織図の中に、強化目標に責任を持つヘッドコーチ制度を取り入れます。</li> <li>・これまで同様、選手・母体コーチ、保護者とのコミュニケーションが重要です。(公平、公正な指導)</li> <li>・強化事務主任の他、強化事務を 1 人置きます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及活動を実らすために、普及マニュアルを作成し、9 ブロックの理事と共に 47 都道府県の障がい者の目に留まる様な広報活動を展開します。</li> <li>・普及・広報のあり方は、9 ブロックの意見が大切になります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員改選の際、皆さんで女性理事の投入を心がけます。</li> <li>・女性理事は、障がい者とスポーツに理解があり、人物温厚で中庸、奉仕の精神の高い人を望みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポンサー情報を理事間で共有します。</li> <li>・チャンスがあれば、意欲的な精神が必要です。</li> </ul>

<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画 (アクションプラン)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金メダル獲得可能な選手を特別選考し強化の効果が明確に出る強化方針を立て実行に移します。</li> <li>・選手が共生社会を待ち望むのではなく、自らが健常者の大会に参加して共生する姿勢を示し、健常者の大会に数多く挑戦させます。</li> <li>・インテグリティの研修会を開催し、人格も鍛えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラ代表選手を広報活動で写真にして、特別支援学校の生徒たちに夢を与えます。また、チラシにして全国に配布します。</li> <li>・メディア取材に対し、選手の心情に配慮します。</li> <li>・広報活動の一環としてイベント企画を検討して行きます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・執行理事会に於いて女性理事増を検討します。</li> <li>・9ブロック理事の方々に簡単な普及計画書を作成して頂くことになるかもしれません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セールスシートに具体的な理念と実践活動を網羅し魅力あるセールスシートにします。</li> <li>・スポンサー候補が現れれば、即行動を起こします。</li> </ul>
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス (PDCAサイクル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回、計画と実施の検証を行います。</li> <li>・軌道修正は速やかに行う事を心がけます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度、計画と実施の検証を行います。</li> <li>・軌道修正は速やかに行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度、計画と実施の検証を行います。</li> <li>・軌道修正は速やかに行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度、計画と実施の検証を行います。</li> <li>・軌道修正は速やかに行います。</li> </ul>

### (3) 日本知的障がい者卓球連盟の中・長期計画 2022-2028 強化事業

#### ◆強化の現状◆

- ・日本の知的卓球の選手層は世界で最も厚いと思われませんが、今後は技術の高さを求めて行きたいと思います。
- ・強化指定選手の選考は、強化指定選手選考規程のポイントに従って選考しています。
- ・強化指定選手選考規程のポイントは、国際大会・国内大会の成績をポイント化しています。
- ・東京 2020 では 5 名の選手が出場。女子で銅メダルを獲得、男女で 3 名が入賞できました。



#### ◆成果目標◆

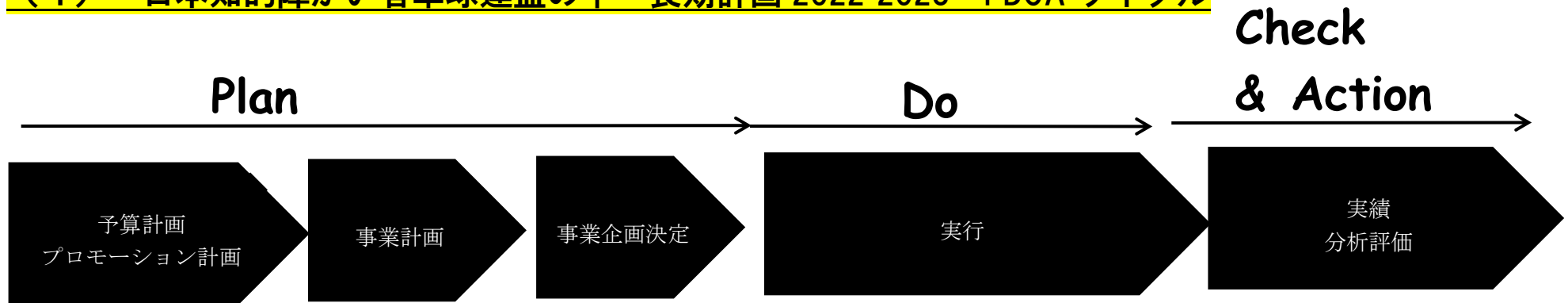
- ・2024 パリパラリンピックでは 6 名の代表選手を目指します。



金 1、銀 1、銅 2 を目指し、6 名中 4 名のメダリストを目指します。

- ・ 2028 パリパラリンピックでも、金 1、銀 1、銅 2 を目指します。

**(4) 日本知的障がい者卓球連盟の中・長期計画 2022-2028 PDCA サイクル**



- ・ 2022 年度は、業務執行理事 7 名、ブロック理事 9 名、強化スタッフ 10 名でスタートします。
- ・ 男女平等の理念を生かし女性理事の 40% を達成します。
- ・ 円滑な世代交代を図るために役員・職員の定年制の検討をします。

- ・各種委員会には必要に応じて理事外の人材を投入します。

### ◆強化戦略課題◆

- ・連盟強化スタッフで目標・計画等を共有します。
- ・強化組織の中に男女ヘッドコーチ制度を導入します。
- ・専門トレーナーの指導を取り入れます。
- ・選手・コーチ・保護者の『人間力』の向上のためにインテグリティの意識向上を目指します。



### ◆戦略実行計画◆

- ・東京パラ、2022 世界大会で外国人メダリストの動画入手し分析に入ります。
- ・強化組織が1チームとなる機会を多く持つようにします。
- ・アスリート委員会の中から選手の意見を反映させます。

- ・ 専門トレーナーを合宿に招き、選手の身体・精神両面のケアに取り組めます。

**(5) 日本知的障がい者卓球連盟の中・長期計画 2022-2028 普及事業の実態**

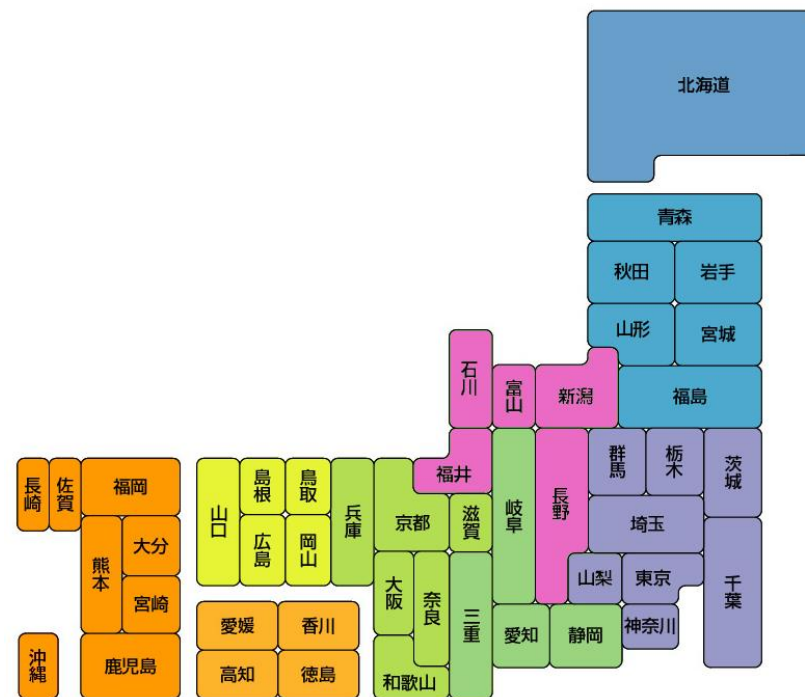
◆現状と実態◆

登録者総数 118名 (2021年度)

2021年度はコロナの影響で登録者数は少ない。

地方別登録者数 (2021年度)

- ①北海道地方 2名 (男 2名、女 0名)
- ②東北地方 8名 (男 4名、女 4名)
- ③関東地方 47名 (男 36名、女 11名)
- ④北信越地方 8名 (男 4名、女 4名)
- ⑤東海地方 9名 (男 8名、女 1名)
- ⑥近畿地方 19名 (男 14名、女 5名)
- ⑦中国地方 9名 (男 8名、女 1名)
- ⑧四国地方 1名 (男 1名、女 0名)
- ⑨九州地方 15名 (男 10名、女 5名)



## ◆成果目標◆

- ・ 連盟主催の大会の参加者 200 名を目標にします。
- ・ 9 ブロックの理事と協力し、普及・発掘に努め、アスリートパスウェイの活動につなげます。
- ・ 普及発掘は、若手選手（10代、20代の選手）をターゲットにします。

## ◆戦略課題◆

- ・ 9 ブロックの理事との協調に努めます。
- ・ 普及活動に広報活動を連携させて展開します。
- ・ 普及を目的としたイベント活動を検討します。



## ◆戦略実行計画◆

- ・ 9 ブロック理事から全国の障がい者スポーツ拠点情報を得て名簿化します。
- ・ 全国障がい者スポーツ大会にて、全国からの代表者にチラシ等を配布します。
- ・ パラリンピック・世界選手権大会等の出場選手の活躍を広く広報します。

## (5) 日本知的障がい者卓球連盟の中期計画 2022-2028 組織運営

### ◆現状と実態◆

#### ○組織運営

- ・ 連盟は、卓球をする喜びを求めている選手を支援するために活動します。
- ・ 女性理事の増を心がけます。（2022年度は 5名／16名）
- ・ 円滑な世代交代を図るため、定年制を2024年までに定めます。

#### ○財政

- ・ 作業量に対しての事務局員数が少なく、事務経費に充てる。  
予算が少ない問題に取り組みます。
- ・ 小口だが、スポンサーの獲得を徐々に広げていきます。



スポンサー収入	2024年度目標	800万を目指す。
スポンサー数	2028年度目標	1000万を目指す



## ◆成果目標◆

### ○組織運営

- ・特に女性の理事を登用していく。2028年までには約40%を達成させます。
- ・連盟は、9ブロック理事と選手発掘に努力しアスリートパスウェイの成果を見ます。

### ○財政

- ・事業を活性化させ、継続して運営していけるよう年間800万～1000万のスポンサー収入を目指します。

## ◆強化戦略課題◆

- ・アスリートパスウェイの強化方法を確立し、2028年には成果を見れるようにします。

### ○強化戦略運営

- ・パラリンピック終了後、実績とともに過去4年間の強化の組織運営を振り返り、パラリンピック終了後の11月に新組織体制でスタートさせます。

- ・アスリートパスウェイでは、2028年を目指し **普及－発掘－育成－強化**の一連の強化過程を本格化し、その成果を2028年に出します。

#### ○財政

- ・自己財源の拡充を図るため、主催大会の事業収入や賛助会員、スポンサー収入など、適切な資金運用等で確実に収益を確保することが、安定した経営を図る上で重要な課題になります。
- ・理事全体として、現状の財政状況について知り課題の打開策を講じていきます。
- ・協賛企業に対して、① 3大会毎報告書の提出、②パラ終了後の報告書提出、  
③世界選手権後の報告書の提出を必ず実行します。

#### ◆組織実行計画◆

## ○組織運営

- ・ 連盟の組織上、同じ役職に長期間つくことが望ましい場合もあるが、10年に1度は大幅な移動、交代を心がけます。
- ・ 役員の理事就任時の年齢についても検討します。

## ○財政運営（スポンサー獲得）

- ・ セールスシートに具体的理念と実践活動を網羅し、魅力あるセールスシートにします。
- ・ 理事同士のスポンサーに関する情報交換を推し進め、獲得活動にあたります。
- ・ 新たなチャレンジとして、障がい者向けのイベント開催で収益増を検討します。



## 中・長期の大きな目標

- ① メインホールに日の丸を上げる。
- ② 常に新時代に向けてアンテナを張り、日頃から改革を検討する。
- ③ スポンサー活動を活性化させる。
- ④ 9ブロック理事と共に普及活動を活性化させる。
- ⑤ 持続可能な有意義な大会を確立する。

## 目標達成、そのイメージ

- ① 強化育成 : 世界のナンバーワンになる。
- ② 連盟組織 : 進化する組織であり続ける。
- ③ 連盟事業 : 社会における事業価値を高める。
- ④ 普及活動 : 卓球を障がい者の代表スポーツに育て上げる。
- ⑤ 大会運営 : 主催大会の雰囲気盛り上げる。

①アクションプランが真の実行計画となるための実施すること

- ① 担当責任者（推進者）と目標指標の明確化を図ります。
- ② 理事会にて達成度の確認と必要に応じた修正を継続的に実施します。

1年に一度  
計画の検証実施する。